



World Milk Day

#enjoy #Dairy



Top 10

世界牛乳の日のソーシャル活動が最も盛んな国トップ10

- | | |
|---------|--------|
| ①インド | ⑥カナダ |
| ②ナイジェリア | ⑦ガーナ |
| ③アメリカ | ⑧パキスタン |
| ④イギリス | ⑨日本 |
| ⑤南アフリカ | ⑩イタリア |

世界100ヶ国で「世界牛乳の日」活動を展開!



グローバル・デイリー・プラットフォームは、アルゼンチンからジンバブエまで、世界100ヶ国が「世界牛乳の日」の活動に参加したことをご報告します。

- イタリア:** Zoetisは、「Driven to Care」キャンペーンを立ち上げ、国連の持続可能な開発目標(SDGs)における17項目の内10項目の指示を含む、地域社会、動物、地球に対する深い関与を紹介しました。
- 日本:** Jミルクは、世界牛乳の日と6月の牛乳月間を記念して、ミルクのバトンリレーを開始しました。このリレーは、酪農業界のメンバーや「牛乳ファン」の皆さんに、写真や動画をSNSで共有していただくものです。抽選で選ばれた30名には、6月末に牛乳グラス、牛や牛乳グッズが贈られました。
- インド:** 政府主催の公式キャンペーン「一杯の栄養」を開催し、乳製品の効能について情報を共有しました。
- ガーナ:** UTVガーナ・オンラインは、「牛乳摂取に関する事実と通説」という、教育的なトークを開催しました。

- カナダ:** Dairy Farmers of Canadaは、この日を宣伝する動画シリーズを作成しました。
- ナイジェリア:** Peak Milkが朝食コンテストを開催しました。#CelebratingPeakBreakfast
- 南アフリカ:** 南アフリカ酪農協会は、TikTokのインフルエンサーを起用し、10代の若者にキッチンで創造力を発揮するよう促すキャンペーン「#DairyDoneEasy」を主催しました。
- イギリス:** Dairy UKは、サステナビリティにフォーカスした一連のメッセージや動画を通じて、世界牛乳の日キャンペーンを支援しました。
- アメリカ:** Dairy Management社は、酪農家の動画「I Am A Dairy Farmer (私は酪農家)」を開発し、Vox Media社と共同でバーチャルパネルと実践的なワークショップを開発しました。

- アメリカ:** Farmers of Americaは、「Nerd Herd」キャンペーンを開始し、#DFAMilkが2050年までに正味ゼロの炭素排出量に到達するためにどのように取り組んでいるかを紹介しました。
- オーストラリア:** フードバンク・オーストラリアは、乳製品会社(Saputo Dairy Australia、Bega、Fonterra、Lactalis)と提携し、2,600の慈善団体のネットワークに新鮮な牛乳を常時提供することにしました。
- コロンビア:** Brand Alqueriaは、子供たちの慢性的な栄養失調と闘うために、150万杯の牛乳を寄付しました。
- フランス:** 消費者団体のLes Produits Laitiers(CNIELによる)はTikTokで、消費者がピンポン玉を上手く牛乳容器に入れるチャレンジ「#MilkPongChallenge」を開催しました。

- メキシコ:** チャリティー団体「Fundacion Lala」は、牛乳がどのように生産されるかを学ぶため、El Compás牧場の見学会を開催しました。
- ポルトガル:** 34校から寄せられた50枚の絵は、Facebookページ「Leite é Vida」で公開されました。
- タイ:** タイ保健省は、ネットワークパートナーとともに、「Share kindness to milk the younger」キャンペーンを実施し、3歳から14歳までの弱い立場にある子供たち1,270人に7,600箱以上の新鮮な牛乳を寄贈しました。

すべてのソーシャルメディア投稿へのリンク:
<https://worldmilkday.exposure.co/world-milk-day-2021>

2021 ハイライト

ソーシャルメディアにおける2021年「#WorldMilkDay」キャンペーンの登場回数13.8億回

前年の8億4200万回よりも60%増加

6月1日以前のグローバルキャンペーンでの登場回数は3億6900万回で、2020年から20%近くの増加

199,295件の投稿で#WorldMilkDayが使用され、前年の3倍以上の投稿数

#WorldMilkDayと#EnjoyDairyに対する感情は、98%が肯定的または中立的、2%が否定的



世界牛乳の日は、世界の食品としての牛乳の重要性を認識し、酪農セクターを祝福するために、2001年に国連連合食糧農業機関(FAO)によって制定されました。以来、毎年、乳製品が栄養、生活、環境にいかにも貢献しているかなど、その有用性を世界中で積極的にアピールしています。

2022年は、5月29日~5月31日の「Enjoy Dairy Rally」から始まり、6月1日(祝)の世界牛乳の日でクライマックスに達します。今年のテーマはサステナビリティで、酪農乳業の環境負荷低減への取り組みを紹介し、そうすることによって、酪農乳業は、画期的な気候変動対策「Pathway to Dairy Net Zero (酪農乳業ネットゼロへの道筋)」の認知度を高めることができるのです。

酪農家の皆さんには、ご自身の牧場で実践しているサステナビリティやイノベーションを紹介する短い動画を、ソーシャルメディアで共有していただくようお願いしています。Twitter (@WorldMilkDay)、Facebook、Instagram (@GlobalDairyPlatform) でフォローし、キャンペーンのハッシュタグ#WorldMilkDayと#EnjoyDairyを使用してください。アクティベーション・ガイドを含む様々なキャンペーン資料は、www.WorldMilkDay.orgでご覧いただけます。

グローバル・デイリー・プラットフォームは、世界中の酪農セクターと乳製品愛好家を結び付けるグローバルなソーシャルメディア・キャンペーンを通じて、世界牛乳の日のお祝いをコーディネートしています。